

人権教育だより

栃木県教育委員会事務局教育政策課人権教育室

『人権教育の授業の実践』の御紹介

栃木県教育委員会では、全ての学校全ての地域において計画的に人権教育が推進されるよう、人権教育の研究指定や人権教育指導者専門研修等を通じて、人権教育に関する指導方法の改善・充実を図っています。今回は、これまでの研究校や指導者専門研修終了者が在籍する各地区の中核的な人権教育推進校における今年度の先進的な取組について御紹介いたします。

特に、県教育委員会が作成し、活用を推奨しているデジタル教材「人権の窓」を積極的に活用した実践が多数ありますので、教材のテーマである「男女共同参画」や「外国人との共生」に関連した授業において参考にしてください。

実践例1 県立学悠館高等学校(定時制)

教科・科目等 倫理・表現Ⅰ（1～3学年 10名） ※単位制

本時の目標 受動態の文構造理解を通して多文化共生と人権に対する理解を深める。

育てたい資質・能力等

- 外国人の特性から日本における文法理解に起こりうる問題点を互いに理解することができる。（知性）
- 受動態の例文を通して日常場面で自分の思いや考えを伝えることができる。（技能）
- クラスにいる外国人生徒の気持ちや立場になって考え、問題を解決しようとする。（実践力）

教材 教科書、ワークシート、アンケート

展開

- 10名のうち3名が外国人の生徒である。3名の生徒にとって理解が難しいことを考える。（アンケート活用）
- クラスメイトとして何を助言できるかを考える。また、外国人から日本人への問題解決方法があれば伝える。



←活動の様子

- 外国人の生徒が直面する授業中の困りごとについて、どのようなことに注意していけるかを確認する。
- 異文化理解に向けた意識を互いに高め合えるようにする。

実践例3 小山市立乙女中学校

教科・科目等 公民科・公民的分野（3学年）

本時の目標

現代社会の男女の平等について科学的に考察し、性別問わず自分らしく生きるためにどのようなことが大切か判断し、表現することができる。

育てたい資質・能力等

男女の権利がそれぞれ守られ、自分らしく生きるためにはどのようなことが大切であり、必要か考える。（判断力）

教材 「人権の窓」（男女共同参画編）レガシー版（中学生用）、人権作文

展開

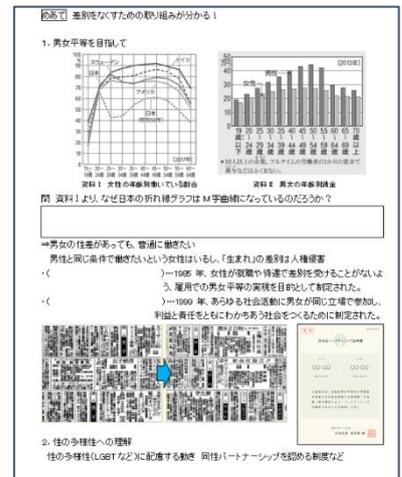
- 級友の人権作文を黙読する。
- 現代社会の男女の差を考え、男女雇用機会均等法及び男女共同参画社会基本法について、教科書やワークシートを使って学習する。
- 「人権の窓」（男女共同参画編）を活用し、ジェンダー平等や日本のジェンダーギャップ指数などを理解する。
- 性別を問わず「自分らしく」生きるためにはどのようなことが必要か考え、話し合う。



↑活動の様子



↓生徒の意見



性別によるイメージ、偏見を持たない。
 ① 自分の考えを述べる勇氣
 ② 周りの目を気にしない
 ③ 声を上げる、個性、能力を尊重する
 「おかしい」と感じる

・「偏見」を持たないこと
 ・自分らしさを貫く
 ・男女における差があるという事実を知っておくこと

・少しでもおかしいと思ったら自ら声を上げること
 ・性別が違ふからという理由で差別されるのではない、個人の能力や個性を大切にすること。
 ・自分と異なる考え方の人がいて、「否定」するのではなく「尊重」する。「偏見」をなくすこと。

・男女関係なく自分の意見を言う。
 ・授業などでこのような内容(人権やLGBT)について勉強することが出来るくらい平等な世界をつくること。
 ・偏見をなくす
 ・人の目を気にしない
 ・ほっとくのではなく個性、能力を大切

実践例4 上三川町立上三川中学校

教科・科目等 道徳 異文化の人と生きる（1学年）

本時の目標 異文化を尊重し、理解し合おうとするための判断力を育てる。

育てたい資質・能力等

自分の意見も他人の意見も尊重し、受け入れながら話し合することができる。（技能）

教材 「人権の窓」（外国人の人権編）（中学生用）、ワークシート、タブレット

展開

- 外国人と関わった経験を振り返る。
- 「人権の窓」（外国人の人権編）を大型TVに映し、現状の課題や解決策などを生徒とともに考察し、ディスカッションする。



↑活動の様子



立場の違いを色分けして考察した。

●指導上の留意点

○主体的な学び

- ・自分だったらどうするかという立場で考えさせる。

○対話的な学び

- ・他者の多様な考え方にふれて、自分自身の考えを広げたり深めたりするよう促す。
- ・補助発問を適宜投げかけて（例 相手を受け入れる態度だけがあればよいのか など）、互いにとって豊かな関係性を築くために必要な考えに気付かせるなどの工夫をする。

実践例5 県立真岡高等学校

教科・科目等 総合的な探究の時間（1学年）

本時の目標

男女の役割を固定的に捉える意識や、社会生活の様々な場面において女性が不利益を受けている現状を理解し、それらの問題を受容したり、考えたりすることができる感受性を養う。

育てたい資質・能力等

男女間の差別の不当性を見極め、状況を適切に判断する。（判断力）
その差別に対する悲しみや怒りを受容することができる。（感受性）

教材 「人権の窓」（男女共同参画編）（高校生用）、ワークシート

展開

- 日本のジェンダーギャップ指数と栃木県の男女間の賃金格差をもとに現状と課題を確認する。
- 身のまわりにある男女間の違いについて話し合い、その合理性について協議する。
- 「合理的ではないもの」について問題点や、それぞれがどのように向き合うのか協議する。
- 「G7 栃木県・日光こども未来サミットの取組」について説明し、同年代の生徒たちの動き・考えについて確認する。
- 「人権の窓 チェックリスト」を活用しながら、学習についての振り返りを行う



↑活動の様子

●生徒の感想

- ・『カジダン』などといった言葉のくくりは差別を助長するものになっているのではないかと今回感じたと同時に、すべての人が自分の思うように生きることの難しさも感じました。
- ・「生きやすさ」が求められる時代になってこそ、主張が強くなってきた「人権問題」。私たちはその最初の舵取りを時代から託されているような気がしました。
- ・男女関係なく好きなこと得意なことを社会のためにできるような社会になってほしいと思いました。

実践例6 県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園

教科・科目等 LHR（2学年）

本時の目標

地域の中で暮らす外国人の現状を知り、日常にある人権上の課題に気付く。
共生社会を実現するために、自分ができる行動を考えて実践しようとする意欲を育てる。

育てたい資質・能力等

相手の立場に立って考えたり行動したりする重要性に気付き、実践しようとする。（実践力）

教材 「人権の窓」（外国人の人権編）（小学生用（上学年）中学生用・高校生用）、ワークシート

展開

●日本と海外の国々のじゃんけんを体験したり、多様化する社会の現状について知ったりする。



●『「ゴミ捨てのルール」どう伝えますか?』スライドを見て、外国人がどのようなことに困っているかを考える。また、ルールがあることを知らせるために自分ならどう行動するか、どのような言葉を掛けるかを考える。



人権について考える時間	月	日	組	名前
1. じゃんけんをしよう ①日本 ②アメリカ ③韓国 ④ベトナム				
2. カタカナ語は通じますか??				
3. 栃木県内に住む外国人の現状について知ろう。 県内の外国人は想像していたより（多い・少ない） 県内の外国人の出身地域は想像していたより（多い・少ない）				
4. なんで言おうかな、やさしい日本語。 ①ゴミ捨てのルールを伝える				
②避難の仕方を伝える				
5. 何気ない言動から				
6. チェックリストで確認しよう。特に気を付けていきたいことに◎をつけよう。				

●「何気ない言動から」のスライドを見て、どのように人間関係を築いたらよいかを考える。



5. 何気ない言動から

Aさんの積極性をふまえながら、より相手を大切にしたい関係を築くために必要なことは何か、考えを書きましょう。

相手伝えたいことを考えてから話すこと

最初から本物のことについて聞く代わりにまずは目的のことを伝える。

●学習をとおして感じたことや、自分の中で変化したことをまとめる。